

月刊 新翔タイムズ

第66号 新翔タイムズ編集室 発行・熊野新聞社

明確な計画立てて努力を

3学期始業式 竹村貢校長が式辞



新翔高校（竹村貢校長）では、1月6日（月）に3学期始業式が行われた。竹村校長は式辞の中で「一年の計は元日にあり。これは、物事は初めが大切であり、しっかりと計画の下着実に行えという意味である。明確な計画に基づく努力こそが、自分の夢をかなえる方法である。新たな決意を持って、新しい年をスタートさせてほしい」と話した。また、日本のまだまだ厳しい経済状況に連れ、一人一人が真剣に学習に取り組む、実力をつけていくこと、ルールやマナーをわ

きまえた人物になることの大切さを説いた。3年生に対しては、自分の夢を実現するために明確な行動計画を立て、卒業する日までのかけがえのない一日一日を有意義に過ごすこと、2年生に対しては、

「ではスキー・スノーボード実習を通して仲間と共に心身を鍛え、さらにたくましく成長すること、また1年生に対しては、学業と部活動を両立させた上級生の素晴らしい実践を本手にして、自分の将来の夢を実現するための計画を立て、最後まで諦めずに努力し続けることを訴えた。最後に「自分の将来の夢を真面目に考え、明確な計画を立て、そして、ひたむきに努力する学期としてほしい」と締めくくった。

爽やか朝の声掛け運動 育友会の協力で登下校指導

1月6日（月）の始業式の朝から10日（金）までの5日間の日程で、育友会の協力を得て、全校で登下校指導を実施した。登校時は、JR佐野駅の朝から10日（金）まで、午前7時50分～8時35分まで、下校時は、JR佐野駅に午後3時台と5時台の電車時間に合わせて協力をお願い。登下校時のマナー、モラルの向上と、交通マナーの遵守を目的に、毎月1回実施しているもので、今回は厳しさを加え、今年度は必ず、5名の保護者の皆さんに協力していただき、「マナーアップ新翔」ののぼりを立て、腕章を着用して、生徒一人一人に声をかけた。3学期始業式を迎え、3年生はす



ぐに学年末考査があり、また卒業式に向け気持ちを引き締めたい。1年生はインターンシップ、2年生は待ちに待った修学旅行と大きな学校行事もあり、基本的な生活習慣や服装・頭髪から自らの行動を見直し、行事に臨んでもらいたい。そして1年間を振り返り、後悔のない学年末を送ってほしい。

学年研究発表会 3学年「総合的な学習の時間」



「書作品」の発表 東岡由莉さん
「理科」の発表 山路陽介君

1月8日（水）5限目、キャリア実習室において3学年「総合的な学習の時間」の学年研究発表会が行われた。「総合的な学習の時間」の授業の中で調査研究制作を選んだ生徒たちは、進路や自分の興味のある分野に関するテーマを1年間かけて研究・学習してきた。そして今回、各研究分野から代表者7名が研究内容を報告・発表した。3組山路陽介君は「理科」

「介護福祉士について」の発表 吉川 陸君
「刺繍について」の発表 一舎咲貴子さん、鈴木里奈さん
「スポーツマナーについて」の発表 嶋本結子さん
「新撰組」の発表 坂上夏美さん

をテーマにさまざまな実験内容と成果を報告した。1組東岡由莉さんは「書作品」をテーマに、色紙と人物を中心にまとめたものを発表した。4組杉原綾さんは「ブラックボード」の魅力を紹介した。3組吉川陸君は「介護福祉士について」で進路に関する職業を研究し、調査結果を発表した。発表を傍聴した生徒も発表内容をメモしながらしっかりと耳を傾けていた。



1月17日（金）に「先輩・地域の方々が先生 インターンシップ前に「講演会」

17日（金）に「先輩・地域の方々が先生」と題して講演会を実施した。これは地元で活躍されている方が講師となっており、1年生を対象に実施した。講演会を実施した方は、beyondの竹中博行さん、SACHIの勢古啓子さん、川合組の岸野圭祐さん、佐野保育所の敷倉佳代子さん、ウォルベックの村田吉隆さん、日好荘那智園の楠本余史さんの6名。生徒はそれぞれの自己の進路希望に関連する講座に参加した。これは産業社会と人間という科目の学習の一環で今年度で7回目。インターンシップを次の週に控えて、事前学習として行った。地域で活躍されている方々のお話を聞く機会はめったにないこと。生徒たちは緊張しながらも講話に真剣に聞き入っていた。



◆先生の紹介◆ 得津翔平先生

1組の副担任、部活動はラグビー部の顧問としており、出身は和歌山市で、大学4年間福岡県で生活をしていました。新宮での生活は、今年度初めてですが人のつながり、温かさ、素晴らしいものがあり、楽しく日々の生活を送らせていただいております。また卒業式に向け気持ちを引き締めたい。1年生はインターンシップ、2年生は待ちに待った修学旅行と大きな学校行事もあり、基本的な生活習慣や服装・頭髪から自らの行動を見直し、行事に臨んでもらいたい。そして1年間を振り返り、後悔のない学年末を送ってほしい。

体育クラブ大会結果

■バドミントン部（新人大会）
ダブルス 優勝 東 定史（2年）・尾崎優真（1年）

■バスケットボール部（新人大会）
1回戦 男子 新翔 39-63 高野山 女子 新翔・新宮 50-73 開智
男子は総体でも初戦当たった高野山高校にリベンジする気持ちで、試合に臨んだ。1ピリオド終了時点で10対10の同点。しかし2ピリオドで攻めきれず、相手に突き放された。今まではそこで諦めてしまっていた選手たちが、まだいけると声を掛け合い、4ピリオドだけの点数を見ると相手を上回る点数を取り、負けはしたものの次のつながる試合だった。
女子は新宮高校と合同チームを組み、開智高校との対戦。試合開始直後はお互いディフェンスが機能せず点の取り合いとなったが、第2ピリオドで相手に点数を取られ10点差で折り返した。第3ピリオドはゾーンディフェンスに変更

し、相手を翻弄（ほんろう）することができたが、相手の速攻やディフェンスのプレッシャーに負け、点数が取れずに敗北。

■ラグビー部(新人大会)
1回戦 対那賀高校 5-34 (敗退)
随所に素晴らしいタックル、アタックにおいてもゲインライン突破が見られた。しかし敵陣に入って、チャンスの場面においても、ハンドリングエラーが多く、ミスで相手にボールを渡すシーンが多く見られ、チャンスを生かすことができなかった。それに対して、那賀高校は自分たちのチャンスを生かし、点差が開く結果になってしまった。

■ソフトテニス部（近畿インドア大会）
1回戦 上根・前田（新翔）④-0 八幡商業（滋賀）
2回戦 上根・前田（新翔）3-④ 高田商業（奈良）
近畿高等学校ソフトテニスインドア大会が1月12日（日）に滋賀県立長浜ドームで行われ、女子個人戦で2年次の上根・前田組が出場した。結果は2回戦敗退となったが、全国レベルの選手たちと勝負できる段階まで来たことを実感できた。

たおいしいご飯、特にお刺身などは新鮮で、和歌山市ではなかなか食べられない食材（タジラ・イルカなど）を食べることができ、新宮での生活を「食」で楽しませていただいております。また卒業式に向け気持ちを引き締めたい。1年生はインターンシップ、2年生は待ちに待った修学旅行と大きな学校行事もあり、基本的な生活習慣や服装・頭髪から自らの行動を見直し、行事に臨んでもらいたい。そして1年間を振り返り、後悔のない学年末を送ってほしい。

